

令和2年度

# 学校関係者評価報告

2021年3月

学校法人浦山学園  
富山情報ビジネス専門学校

## 「学校関係者評価報告書」の公表について

本校では、教育や業務の改善を図るべく、継続的に自己点検・評価に取り組んでおります。このたび、更なる教育の質の向上を目指し、高校関係者・保護者・卒業生や地域にかかわりの深い企業の方々を中心にご意見等を賜り、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、「学校関係者評価委員会」を実施いたしました。

この委員会での検討内容を「令和2年度 富山情報ビジネス専門学校 学校関係者評価報告書」としてここに公表いたします。

委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき、あらためて感謝申し上げます。今後は、各評価委員からいただいた貴重なご意見、ご助言を真摯に受け止め、より質の高い教育、学校運営を実現すべく、教職員一同努力してまいります。そして、その結果につきましては、毎年学園のホームページ上で公表してまいります。

引き続き、温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和3年3月31日

学校法人 浦山学園  
富山情報ビジネス専門学校  
校長 浦山 哲郎

## 学校関係者評価委員会報告

本校は 22 年度より、財団法人 短期大学基準協会が定めた「短期大学評価基準」に合わせて自己点検評価を実施している。今回の学校関係者評価は、この基準に加え、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた内容とした。また、本校と関係する企業や団体等から学校関係者評価委員を選出し、「令和元年度自己点検・評価報告書」の内容と「令和元年度自己点検・評価報告書課題」を中心に、教育活動全般について評価していただいた。加えて、学校の新しい取り組みや学校を取り巻く環境や課題についても、報告や相談をおこない、学外からの意見と助言を求めた。各委員からの意見は、校長以下、自己点検・評価に係る担当者が承り、その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

### 学校関係者評価委員会 委員

氏 名	所 属	選出区分	任 期
吉岡 隆一郎	株式会社文苑堂書店 代表取締役 会長	地元企業関係者	2 年
杉本 章郎	富山情報ビジネス専門学校 同窓会 会長	卒業生関係者	2 年
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 校 長	高等学校関係者	2 年
石橋 久美	富山情報ビジネス専門学校 後援会 会長	保護者関係者	2 年

(敬称略)

## 令和2年度 学校関係者評価委員会議事録

開催日時：令和3年度3月26日（金） 17:30～18:30

実施会場：富山情報ビジネス専門学校 USP Room3

出席者：学校関係者評価委員会委員

委員長 吉岡 隆一郎 株式会社文苑堂書店 代表取締役会長  
委員 石橋 久美 富山情報ビジネス専門学校後援会 会長  
委員 杉本 章郎 富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長  
(欠席) 委員 奈呉江 教典 高岡龍谷高等学校 校長

富山情報ビジネス専門学校出席者

浦山 哲郎 富山情報ビジネス専門学校 校長  
能登 一秀 富山情報ビジネス専門学校 副校長  
石田 哲也 富山情報ビジネス専門学校 教務部 学科長 兼 学事部 課長  
政岡 孝子 富山情報ビジネス専門学校 学事部 主任

議事次第：

1. あいさつ
2. 令和元年度自己点検・評価報告説明
3. 質疑・応答

資料：

- ・名簿
- ・委員会規程
- ・自己点検・評価報告書
- ・2020年度の教育活動及び運営状況について
  - (1) 経営基本方針
  - (2) 重点目標・活動計画
  - (3) 国家資格・検定合格について
  - (4) 学生募集状況
  - (5) 学修成果の可視化について
  - (6) キャリア・就職支援について
  - (7) 新学科の開設について

## 議事内容：

### 1. 開会

委員全員出席を確認し、開会した。

### 2. あいさつ・趣旨説明

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により急遽、オンライン授業を行う必要が出てきた。短期間で準備を行わなければならない、学生の環境も併せて整える必要があった。6月からは対面授業ができるようになったが、学生には、新入生歓迎会や学園祭もできなかったのがかわいそうなこともあった。

教育目標として学習成果の可視化について 内部・外部に見ていただくような環境づくりを行った1年であった。

就職に関しては、95%の就職率の結果となり、どういう働き方をしたいかを学生たちと考え、一緒に支援していくように取り組んだ。

令和2年度には、教育目標を「つくり、つくりかえ、つくる」とし、[国家資格・検定合格に挑戦する自分づくり]、[社会性・創造性・国際性豊かな自分づくり]という2つの「自分づくり」を具体的に掲げました。次年度はこの「自分づくり」を評価し、自身や外部に公表する場として、「学修成果の可視化」に重点を置き、教育活動を推進していきたいと考えています。その中でこの自己点検・評価で挙げられた課題に対しても改善を図っていきたいと思います。学校の取り組みに関するご忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

### 3. 2020年度教育活動及び学校運営状況について

能登副校長より「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の観点を基本にした経営基本方針と重点目標について説明を行った。

財務、教育改革、仕事改革、構造改革の大項目4つとその中に2つずつの小項目があり、合わせて8項目について重点目標に落とし込んで取り組んでいく。

#### ■国家資格・検定合格について石田学科長より報告があった

- ・重要検定についてコロナの影響で 検定が中止になったことが多かった
- ・遠隔授業であったためにできなかったということがないように取り組んできた
- ・各学科において、全国平均をうわまったものが多くできたのではないが
- ・試験対策 反転授業、家で学習できるような動画プログラムをつくり、自宅で基本を勉強し、学校で応用を行うように取り組んでいく予定である。
- ・基本情報技術者試験があるのだが、企業で求められているものであるが、当校では富山県内でも合格率が高い。応用情報についての全国合格率は29%である。企業で何年か務めて実績を積んでいないと応用情報を受験できないものだが当校では在学中にとれる25%も2名が合格。今年の総代の学生が合格した。
- ・医療事務学科においては5つの検定において すべて合格率上回る事ができた
- ・診療情報管理士は 重視される検定で、医療事務2年間+1年研究科という仕組み。特に大きな総合病院での事務処理を行う。今年の合格率は、17名中15名であった。全国平均は、40%くらいであるので大きな成果である。大きな病院（大学病院など）に就職できた。

#### ■学生募集状況について

定員があつて志願者数（出願のあつた数）、確定者数は本日現在当校に決めた数である。この後4月にはいるまでに辞退を行う可能性も出てくる。重点目標KPI指標と比較している。目標と乖離しているものもありますが、前年度と比較して目標を立てたことでトータルとして増えている。留学生については、入管より在留資格認定がおりた人数に設定しているが、来日できるかどうか新型コロナウイルスの影響により未定である。

### ■学修成果の可視化

教育目標に沿って 学科により人材像を設定する。ディプロマポリシーの達成のためにカリキュラムを設定する。学生は、自分がどのレベルにいるか、自己評価をおこなう。エクセルシートに 5 段階でできたかどうかの数値を入れるとレーダーチャートで表示される。アドバイザのコメントと双方向でおこなう WEB 上で見える化できるようにした。前期後期と進むにつれレーダーチャートの円がだんだん大きくなっていくのが理想。Google アカウントを行うことで デジタル化がすすんで自宅や外出先でも課題などの学習も可能となる。パンフレットに載せて高校生にもアピールしていく。次年度は反転授業をおこなっていく。

### ■進路・就職について

3/24 現在の学科ごとに就職企業名・学校名が記載。数値 96.2% の決定率。残り 7 名結果待ちの学生もいる。最後までフォローしていく。コロナの影響もあり、出だしが遅かったという反省点もあるので、就職支援の在り方を変えていこうと思っている。

キャリア就職支援として UMP (マッチングシステム) を構築した。企業は、システムに求人登録をおこなっていただく。学生もシステムに登録を行う。学生自身が検索をしてどんな企業から求人が来ているか見ることができる。企業と学生間でメールのようなやり取りを行う。卒業生にも登録してもらい、人材を紹介するというシステム。就職活動を主体的に進めることができる学生もいるが、そうでない学生を中心にフォローしていく。

### ■新学科開設について

2022 年度 4 月に始まる (建築デザイン学科 3 つの専攻)、公務員学科。2021 年度に募集を行っている。インターンシップ活動で実習も通し実践力を身に着ける。建築士の試験は卒業してから 7 月に試験となるので、その試験を受けるまでフォローするためプラス 1 年の研究科を設けることも検討中。

公務員学科は大原さんが「公務員なら大原」という感じであるが、高校生が公務員になりたい、という需要が多いため その要望に応えるために開設を行う。合格したら入学前から反転授業、アプリ活用、過去問模擬試験。5 か月の短期間に合格を目指し指導していく。

建築 40 名、公務員 30 名の定員増を 2022 年に考えている。公務員は 1 年課程で、万が一合格できなかった学生に対し、編入できるように考えている。2023 年度には、新たな学科を開設したい。東京に行かなくても自分のなりたい分野に就職できるというような充実した学校にしていきたい。専門学校は伸びる分野がまだある。在校生が 1,000 名規模学校になれるよう積極的にしていきたい。

学校関係者評価委員との質疑応答や意見交換を行った。

Q : 教育プログラムを企業と共有しキャリア支援の充実を図っていますが、どうですか

A : 企業への訪問を 100 社に行う計画としたが 達成にはいたらなかった。

2 月には、企業の方に来校していただき校内企業説明会を開催した。留学生との交流の場の設定については、留学生対象としての説明はできなかったが、学科単位で企業の方に来てもらい学生に説明実施できた。企業の方々にアンケートを取らせていただいて、どんな学生を求めているか によってそれに沿うようにして活動をしていった。今後 UMP を活用して企業のと学生のマッチングを積極的にしていきたい。

学生募集について

Q：情報システム学科が前年比200%となっているが大丈夫なのか

A：教室を工夫して2クラスに分ける予定である。

Q：情報システム学科は、増えているがどうしてか

A：プログラミング専攻については、当校が強い。入試を受ける志望理由は、他校と比べ、情報系の検定合格率が高いからということで当校を選んでくれている。

Q：日本語学科の入管の認可が通ったというが、去年はどうだったか

A：新型コロナウイルスの影響により、現地で出国させない状況が続いた。来日できた学生は、成田まで迎えに行き、食事やホテルを準備して、14日間の拘束をおこなった。次年度もおなじようにおこなう予定。技能検定を増やしていて留学生の数を減らしているようである。いろいろ尽力したが、インドの学生は、入学に至らなかった。

学習成果の可視化

Q：自分で評価をすることが大事なのでしょうか。

A：自分の成長をみていく、自分自身を見ていく教育プログラムです。

Q：チャートであるから作りやすいですね。

A：誰が見てもわかりやすいものを考えています。

## 6. 閉会

能登副校長より、今後も当校の取り組みなどに対し、忌憚のない意見をいただけるようお願いし、閉会した。

以上